

みんなで、クラスの花を生けてみよう

—友達に、先生に、教室に、思いをこめて—

作成者：NPO法人感性の教室 加藤 潤子・花道家 大久保 有加

- 対象者・人数：小学校3年～6年、中学生 40名まで（1クラス単位の実施）
 - 所要時間：50分（1時限／小学校1時限45分単位として＋休み時間5分）
 - 指導者・アシスタント人数：講師1名、サポートスタッフ3名～5名／担任、担当の先生
 - 実施場所：小学校・中学校（教室）
- *感性の教室は、(社)日本花き卸売市場協会 青年部の協力により、花育の授業を実施しています。

必要な材料・道具類の準備について *以下は小学校での実施を基本とした準備です。

■ 講師の準備

- ・デモンストレーション用材料・道具
 - 花材（ガーベラ・ハラン各1本、季節の花数種）、ガラス花器、大判ハンカチ
 - 2Lペットボトル、花鋏
- ・資料写真／講師の作品、生産者、市場、花屋等
- ・ワークシート原本1枚（事前に印刷をお願いした場合も、予備として持参）
- ・花用キャップ／児童数分（観察時に使用）
- ・花器1個／プラスチック製バケツ型ゴミ箱1つ（花数に合わせて5～6L／無地）
 - *100円ショップで購入可能です。クラフト紙や和紙、英字新聞等で周りを覆い、ホットキスで留めて持参して下さい。（打ち合わせ時に、先生に制作をお願いできれば、理想的です）

■ 学校の準備

- ・ワークシート用の印刷できる画用紙／児童数分＋α（A4）
- ・花を保存するためのポリバケツ4つ
- ・水差し1個（準備できない場合は、講師・スタッフが持参）
- ・床を汚さないための養生シート（花の準備や水回りに使用）
- ・ぞうきん5枚 ・ゴミ袋2枚 ・新聞紙3日分
 - *実物投影機／準備が可能であれば、資料写真を見せるために使用

■ 児童の準備

- ・筆記具 ・下敷き（ワークシートの下に敷く）

■ 花材の準備

- 季節の花 5～6種類／児童数＋5本（先生が生ける分と、傷んだときの予備）
 - *生けたときの全体の色の調和や、花器とのバランス、季節感を考慮して選ぶ
 - *キャップに入る太さの茎で、茎や花びらが傷みにくいもの
 - *観察しにくい花は避ける（小さい花、カスミ草等）

● 目的

一本の花を観察し、みんなで生ける体験を通して、命の繊細さ、強さ、美しさに気づき、花とかかわる喜びを共有する。

- ・一本の花を大切に扱い、「見る・触る・嗅ぐ」等、感覚を使って丁寧に観察することで、身近にある自然の命「花」への親しみと理解を深め、他者への感覚的な想像力を育む。
- ・みんなで心を合わせて生ける楽しさと一体感、完成した時の喜びを体験する。
- ・花を生ける前と後の教室の違いに気づくことを通して、花を生けることで、周りの環境が変わること、自分たちの手で環境を美しく変えられることを体験する。

● 概要

1. 始まりのあいさつ、講師とスタッフの紹介
2. 1人1本ずつ花をじっくり観察する。
 - ・丁寧にしながら、スケッチをする。
 - ・匂いや触った感じを言葉で表現する。
3. 講師のデモンストレーション（花を生ける）を見て、花といけばなのお話をきく。
4. 1人1本ずつ、クラスの花を生ける。
5. 担任の先生が、最後の一本を生ける。
6. 感想を発表する。講師の講評をきく。
7. 担任の先生から、感想とまとめのお話をきく。



● 対象児童・生徒への配慮

1. 安全な環境づくりに努めること

- *子どもたちが、安心して伸び伸びと取り組める環境づくりが第一です。
- 1) 講師、スタッフの動線が、子どもたちの邪魔にならないかを確認する。
- 2) 花鋏の使用時には、子どもたちに安全への注意を促し見守る。
(固い茎など、切りにくい場合は、手を添えてフォローする。)

2. 児童・生徒の状況を把握すること

学校との事前打ち合わせで、子どもたちの様子を可能な範囲で先生に伺い、留意点や、配慮が必要な子どもがあれば、その対応について指示をしていただく。

3. 誘導しない、否定しない、急がせないこと

- 1) 制作の時には、技術的なフォローだけにとどめて、作品の仕上がりを誘導することのないように。(大人が作品の出来上がりのイメージを持たないことが大切です。)
- 2) 観察や制作の場面で、否定的なことばをかけないように。
(こちらの方が良いかな? もう少し考えてみる? 等、言い方を工夫)
- 3) 「急いで」「早く」等の言葉で、子どもたちを急がせないように。
「名残惜しいけれど、もう少しで終わりの時間です」というような形で、終了の時間が近いことを知らせる等、花と向き合う時間がゆったりと流れるように、言葉掛けを工夫すると良い。

4. 児童・生徒を注意深く見守り、良いと感じたことを伝える(ほめる)こと

「上手、すごい」だけでは、お世辞になってしまう。子どもたちの様子を丁寧に見つめて、具体的な言葉で、気づいたことをその場で伝えること。
*制作中の作品についてだけでなく、「よく見ている」「丁寧に花を扱っている」等、様々なことに気づくことが大切です。

5. 「花は命あるもの」を忘れずに

講師もサポートスタッフも、常に、花を「物」ではなく、「命あるもの」と意識し丁寧に扱うこと。言葉だけでは、子どもたちに伝わりません。

6. 児童・生徒を混乱させない円滑な進行を心がける/進行役を1名たてる

学校の授業時間の実施では、時間超過はできない。また、その日の子どもたちの様子によって進行時間の過不足も起きやすく、臨機応変な対応が求められる。そのため、全体の内容を充分把握した進行役を1名たてて、時間調整と進行を行なうことが望ましい。

実施に当たって

1. 事前の打ち合わせ

1) 学校との打ち合わせ

- ・必ず、学校へ出向き、周囲や校舎を含めた環境と、実施場所の確認を行なう。
- ・実施について、先生からの要望を伺う。
- ・児童数、児童・生徒の様子と、対応に気をつける点はないかを伺う。
- ・花材の入手方法について、学校に負担が少なく、より良い方法を相談する。
- ・材料、道具の準備と、当日の進行について確認する。
- ・可能であれば花器用の容器と紙を持参し、その場で説明しながら、先生に花器を制作していただく。(先生がつくった花器に生けることで、より一体感が増す)

2) サポートスタッフとの打ち合わせ

対象児童・生徒への配慮と、当日のプログラムを配布し、打ち合わせを行なう。その他に、学校との打ち合わせで伺ったこと、学校の様子等も伝える。

*当日持参するものについて伝える。/花鋏(サポート用)

2. 当日の事前準備

1) 実施場所、児童の動線を確認する

2) ワークシートの印刷を先生に依頼/A4画用紙に印刷・児童数分+α

*打ち合わせ時に原本を渡すか、事前にPDF原稿で送って、印刷しておいていただくより良い。

3) 準備

講師：実物投影機で、作品や生産者等の写真紹介のシミュレーションと、デモンストレーションの準備を行なう。

- ・花材(ガーベラ、ハラン、季節の花)・ガラスの花器・2Lペットボトル
- ・花鋏・大判ハンカチ

サポートスタッフ：花材の準備と、道具類の確認を行なう。

- ・花材の数の確認。
- ・花材の茎が長いものを切る。(観察しやすく、生ける時に短すぎない長さで)
- ・花に、1本ずつ水を入れたキャップをつける。キャップをつけた状態で、バケツに立てておく。
- ・花器と水差しに水をいれて準備しておく。

4) 進行と、児童・生徒への留意事項の確認

*当日の変更点や特に注意すべき点等について、最終確認を行なう。

3. 当日のプログラム 所要時間50分／休み時間5分を追加

*事前にワークシートを配布し、名前を書いてもらっておく

■ あいさつ (5分) 講師と、サポートスタッフの紹介
本日の授業についての説明を先生にしていただく。

■ 花を配布する (5分) (各自1本ずつ、なるべく同じ花が隣り合わせにならないように)
「一人一本ずつ、花を渡します。この花を後でみんなで生けます。」

*花を「はい、どうぞ」と言いながら丁寧に渡すことが大切。

2つの約束をする (花の配布終了後)



「今日は花を生けますが、そのためには花をよく知ることが大切です。これから、花をよく知るために、観察をします。花は命のあるものです。乱暴に触ると折れたり、花びらがとれてしまいます。大切に持ったり、触ったりして下さい。」

「観察の後で一人ずつ順番に花を生けます。花を生ける時にはハサミを使うこともあります。隣の人とふざけたりすると思わぬ怪我をします。歩き回ったり人の邪魔をせず、静かに、生ける順番を待ちましょう。」

花の名前と産地を紹介する

「この花の名前は、何でしょう？」
「○○という花です。○○県からやってきました。」

*花を1本ずつ見せながら、花の名前と産地を黒板に書きます。名前と産地を書いたカードをあらかじめ作って貼ると、理想的です。

■ 花の観察をする／ワークシートを使い、描く(書く)場所を示しながら進める (15分)



1. よく見て、花をスケッチする。(10分) ※まず、花から描くように促す。

「じょうずに描くことや、完成させることが目的ではありません。よく見ること、見たままを描くことが大切です。消しゴムはあまり使わず、見たままを描いていきましょう。」

2. 触ったり、匂いを嗅いで、感じたことを言葉で書く。(5分)

「目をつむって、触ったり匂いを嗅ぐと、よく感じる事ができます。」

*はじめに、言葉の表現例を少しだけ伝える。

匂い／甘い、すっぱい、～みたいな匂い 触感／かたい、つるつる等

■ 講師の花を生けるデモンストレーションを見て、お話をきく (10分)



1. ガラスの一輪挿しに、ガーベラとハランを生ける

*ガラスの花器に生けることで、花材がどのようにして留まっているかを見せることができる。

・ハランの葉の様々な表現方法を見せる。

そのまま、葉を丸める、葉脈に沿って裂く、編む等。

・ガーベラの花を生ける。

茎の長さや器とのバランスの取り方を見せるようにする。

「花を生ける時は、自分が太陽になったつもりで、花の表情(顔)を見て、うつむかず上向きに見えるように生けましょう。葉や枝の表面は、太陽に当たっているほうが、濃く色づいています。グルッと回転させてみて、その違いを見つけてみましょう。」



2. ペットボトルに季節の花を生ける

・2Lのペットボトルを半分に切ったものを用意する。

・ペットボトルの下にハンカチを敷き、対角線の四隅を二箇所結ぶだけで、立体的な花器をつくり、季節の花を生ける。

*結び目を利用すると花が簡単に留まり、少ない本数でも、見栄えのする生け方ができる。身近にあるもので花器がつかれること、また、花数が増えると違った趣きになること等、場に応じた花の表現があることを伝える。

「少しでも長く飾って花も人も楽しめるように、花器(水を飲ませる器)の水の中には葉が入らないように、葉は整理してから生けます。水替えをした場合は、茎の部分を切り戻してあげて、なるべく水が濁らないよう努めることで、花が長く元気でいられます。」



3. 花といけばなのお話

・花は、どのようにして私たちの手元に届くのか。生産者、市場、花屋、いけばなの先生など、花に関わる人たちの役割について話す。

・いけばなは、日本の伝統文化、花文化であること。豊かな四季を生かし、移ろう四季を楽しむ方法であること。

・いけばなの起源:お正月の松飾をはじめ家に花を飾る風習を紹介する。

*生産地、市場等の写真や講師の作品の写真などを見せながら、話すことが望ましい。(作品の写真は、偏らないように様々なタイプのものを見せると良い)

■ 観察した花を一人一本ずつ生ける (10分)

教室の正面にある教壇等に花器を置き、一列5、6名ごとに前に出て花を一人一本ずつ生けていく。
(教壇が高すぎる場合は机等を設置する。)



「これから、クラスの花を生けます。友達に、先生に、いつもお世話になっている教室に、みんなで、ありがとうの気持ちをこめて、生けましょう。」
「生ける時は、自分が太陽になったつもりで、お花の顔が見えるように生けましょう。」

「自分の席で生ける順番を待つ間や、生け終わった後には、観察や、花を生けた時に、気づいたこと、感じたことを観察シートの裏面に書きましょう。」



1) サポートスタッフ/子どもたちの花のキャップを外す。

2) 講師/花を生ける場所を聞き、アドバイスをする。

「どこに生けたい? お花が寂しい所はないかな?」
*茎が長い場合は、花鋏で切る手助けをする。



3) 生ける順番を待つ間や、生け終わった後に、ワークシートの裏に、観察や生けた時の感想を書く。

「感想を書き終えた人は、机の上を片づけて、どんなお花ができあがるのか、友達が生ける様子を見ながら、楽しみに待ちましょう。」

4) 児童が生け終わった後に、担任の先生が最後の一本を生ける。

「いよいよ最後の一本を先生が生けて、みんなのお花を完成させます。みんな、どこに生けたらいいか、先生に教えてあげてください。」

*児童全員が着席した後に、注目してもらい言葉掛けをする。
最後の一本は、鮮やかな色のバラや、ガーベラ等、印象的なものが良い。

■ みんなの作品を鑑賞しよう (5分)

- ・みんなの作品を鑑賞して、数人の児童に感想を發表してもらおう。
- ・講師が作品の講評を行なう。

■ 終了 担任の先生から、感想とまとめの言葉をきく。

プログラム実施の詳細と留意点について

■ 花の配布について

「これは自分だけの花、いただいた花との出会いを大切にしましょう。」と話して、子どもが選ぶのではなく、1本ずつ丁寧に配ります。
選んだり希望を聞くと、かえって、思い通りにならなかった時に不満が残ります。

■ 観察について

仕上げること、うまく表現することが目的ではありません。一本の花(命)と真摯に向き合い、その不思議さ、繊細さ、美しさなどを発見する手立てとして、大切なプロセスです。講師・サポートスタッフは、子どもたちの間を回りながら丁寧に見守り、子どもたちが評価を気にせず、安心して伸び伸びと表現できる環境づくりに努めましょう。以下のような言葉掛けを参考にして下さい。

花の観察シート
()年()組 名前() ○○○○年○月○日
.....
*花の名前を書きましょう
.....
●花をじっくり見て、絵にかきましょう
.....
●においがかいで感じたこと、気づいたことを言葉で書きましょう
.....
●花や葉、くきをさわって感じたこと、気づいたことを言葉で書きましょう
.....

1) よく見ることが目的なので、時間内に花びら一枚だけしか描けなくてもかまいません。見ることに夢中になり、描くことが遅くなる子どもいることを理解し、見守りましょう。

2) 形が複雑な花でも、「見たままを描いてみよう。」と促すと、子どもたちは驚くほど丹念にスケッチをして、形を捉えます。そんな時は「こんなに細かいところが描けてすごいね。」と言葉をかけてあげてください。

3) 匂いや触感を言葉で表現する時、言葉でつぶやいているが、書くことをためらう子どもがいます。素直な言葉を聞き取り「それはいいね、そのまま書いてみよう。」と促します。

参考/観察用ワークシート(A4サイズ)

*当実践では、子どもの表現を生かすため、また、集中を妨げる場合もあるため、ワークシートには、イラストや模様を加えておりません。

■ 講師のデモンストレーションについて

- *実物投影機が準備できない場合は、写真をA3に拡大コピーして見せると良い。
- ・講師の説明やデモンストレーションは、花材の表現方法の説明にとどめて、子どもたちが作例そのまま真似しないように、自分たちが創意工夫したくなるような投げかけを行なって下さい。
- ・講師の手の仕草からも、花へのいたわりが伝わることを常に意識しましょう。

■ みんなで花を生ける

- ・講師：子どもたちがどこに生きたいかを聞き、生けにくいときのフォローや、茎が長過ぎる時に、花鋏で切る手助け（安全の見守り）を行ないます。

生ける時のポイント

- 1) 花器の水に葉が浸らないように、きれいに取り除いてから生けるよう伝える。
- 2) 使用する花材の特徴を考慮し、子どもたちが生けやすいように、以下のようなイメージで、言葉掛けをしていく。全員でひとつのものを作り上げていく過程を大切にすること。

前半：骨格を作るように出来るだけ長く、大きく生けるように。

中盤：肉付けするように。

後半：仕上げをする。

- * どこに生けるか迷っている子どもには、「寂しい場所はないかな？」と言葉掛けをすると、生ける場所が見つかりやすくなります。

- ・サポートスタッフ：講師のサポートと、子どもたちのサポートを分担します。

講師のサポート 1～2名 / 子どもたちの花のキャップをはずす。

子どもが葉を取り除くとき等のサポートを行なう。

子どもたちのサポート2名 / 席の間を回って、ワークシートの裏に感想を書く様子を見守る。

- * 席に戻らず歩き回る子どもがいた場合は、「約束を思い出してね。」と戻るよう促します。

■ 作品の講評

- ・子どもたちの感想を聞くポイント

感想の言葉を流さずに、内容を繰り返し「良く気づいたね」「そこがきれいだったんだね」等、発言を受け止めて認めるよう努めましょう。

講師の講評のポイント

- 1) 否定的な言葉は使わず、良い点を具体的に伝える。
- 2) 作品全体について講評する。
 - * 担任の先生がつくった花器や最後の一本についても触れる。
- 3) 観察から生けるまでの過程で気づいたことを伝える。
(例：子どもたちが花を大切に扱ったこと等)

* 授業の実施時間について

所要時間は50分となりますので、授業開始前か、終了後の休み時間を5分いただいて実施できるよう、打ち合わせの際に、先生にお願いして下さい。

学校での実施に当たって ー配慮と留意点ー

1. 実施の心構えについて

学校での実施は、授業の一環であるため、実施時間の超過や進行の不手際で、先生や子どもたちに負担をかけることはできません。また、希望者を募って行なわれる学校外のイベントやワークショップとは異なり、対象となる子どもたちの中には、花に触れた経験のない子どもや、興味のない子どももいます。

以上の点を踏まえた上で、「教育の機会」であることと、「子どもたちが初めて花と出会う機会」であることを念頭に置き、子どもたちにとって「初めての花との出会い」が、より良いものとなるよう、慎重に、責任感を持って、臨んで下さい。

2. 学校への配慮と、実施の留意点について

- ・先生への負担をできるだけ減らす努力を

外部から人を迎えることは、多忙な先生方にとって大きな負担です。先生が子どもたちに関わる時間を減らすことのないよう、打ち合わせや連絡等を簡潔に、的確に行なって下さい。また、花材の入手方法の相談に乗ったり、学校で用意できない道具等を持参する等、できる限りの協力をお願いします。

- ・実施条件と準備の確認を確実に

打ち合わせで、実施条件と準備の確認をしっかりと行ない、実施日が近づいたら、再度、FAXと電話で確認して下さい。(授業時間短縮等の変更に注意して下さい)

3. 子どもたちへの配慮について

- ・一期一会の出会い

外部からの授業支援は、実践者にも子どもたちにも、一期一会の機会です。不用意な発言や態度等で傷つけることのないよう、講師・スタッフともに、子どもたちへの対応について、事前に充分話し合い、留意点を確認しましょう。

- ・対応が難しい場合は先生へ

子どもたちの間のけんか等、難しい状態が生まれた時は、自己判断で対応せず、先生にお任せして下さい。(背景がわからず介入するとかえって混乱します)

4. 実践事例について

生活科、総合、図工科、展覧会等。学校公開日での実施も多い。

結びに

学校での花育の実践は、花を通して命の繊細さや美しさを伝え、子どもたちの感性や創造性を育む大きな可能性があります。子どもたちと学校の応援団という姿勢で実践すれば、多くの子どもたちの心に、「生活を豊かに創造する」花の種を届けることができると思います。

ここに、花の授業の感想から、子どもたちの言葉を紹介します。

「今まで、花はただの飾りものだと見ていたけど、授業を受けた後、花に命の息吹が感じられて、これから花屋さんの前を通る時、同じことが感じられると思います。」(6年男子)、
「みんながなぜ花が好きか、わかった。」(3年女子)

「花を子どもたちへ」ではなく、「子どもたちに花を」と考え、子どもたちが主役の実りある花育体験となるよう、当プログラムを生かしていただくことを願っています。